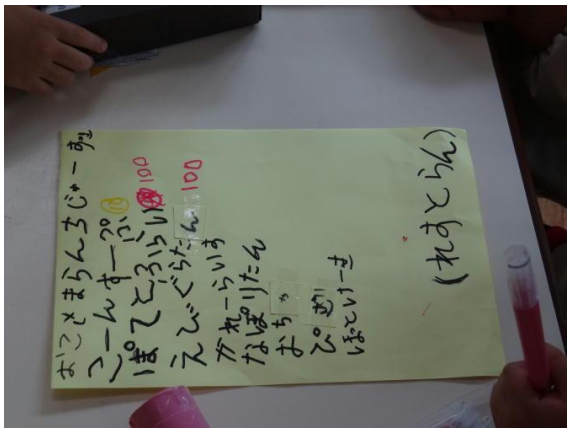
お店屋さんごっこ

年長さんが、自分たちで準備した「お店屋さん」を開店しました。
ジュース屋さん、レストラン、ケーキ屋さん、きつねのショウの４つです。
ちょっと難しい話になりますが、幼稚園教育が意識して取り組むものとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」というものがあります。
たとえば、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」という内容があります。子どもたちが遊びや生活の中で、数量や図形、文字などに出会い、その必要性が感じられる体験を積み重ねていくように保育をしています。

左はジュース屋さんです。下の看板には、何屋さんか、何を売っているか、いくらなのか、が書いてあります。子どもたちは、必要に迫られて文字を書き始めます。ひらがなそのものはお母尽きませんが、大切なのは、経験を積み重ねていくことです。

次は、お店屋さんに必要なお金と、レジスターの準備です。
お店屋さんで見かけるレジスターをお菓子の箱で再現しています。手前にはお金が準備されています。「５円、１０円、１００円」が、ありました。子どもたちの身近な生活の中で使われているお金です。



「言葉による伝え合い」という内容もあります。上は、レストランのメニューです。４人の子どもたちが、メニューの料金を決めています。「エビグラタンは、いくらがいい？」「１００円にしようよ。」友達の意見を聞き、みんなで話し合って決めています。
右は、ペープサート「きつねのショウ」です。一人の子どもが読む物語の台詞に合わせて、言葉にあった動きを考えて、きつねのペープサートを動かしています。
言葉は、子どもが自分の考えや気持ちを伝えたり、物語の言葉に触れたりすることで育っていきます。場面や活動の中でこそ言葉の意味が理解でき、意味と表現をセットにして身につけていきます。こんな経験を積み重ねています。